



## 蓮如上人とは？

吉崎御坊を出発点に本願寺を日本一の教団に興隆させた本願寺第八世法主（1415～1499）。

大河ドラマにも度々登場する強大な本願寺の礎(いしずえ)を築いた他、日本のビジネスを支えた「三方よし」や北陸三県民の精神風土を育みました。

まさに、日本の精神文化と経済の「巨人」であるとともに、北陸では親しみを込めて「蓮如さん」と呼んでいます。

蓮如上人が布教で赴いた頃の越前は、親鸞聖人の法脈を受け継ぐ真宗高田派、如道上人による真宗三門徒系、そして、時宗が教勢を誇っていました。これらの在地勢力に対して、蓮如上人は名号（南無阿弥陀仏等）や門徒宛に信仰の要を説いた御文の大量発出、惣村の寄合を信仰共同体に変えた講の結成により、本願寺の門徒として取り込んでいきます。

こうして、高田派、三門徒派、時宗の末寺は次々と蓮如上人に帰参、本願寺に転派していきました。

北陸布教にあたり、蓮如上人は先ず「我こそ親鸞聖人の本流なり」と自身の血統と法脈（教義）の正当性を前面に打ち出しました。蓮如上人が受け継ぐ親鸞聖人以来の血統と、真宗の教義が一体となって自身に継承されたとする「血法一如（けっぽういちによ）の法統」をもって、越前の既存教団にその優位性を打ち出したのです。